

塩野義製薬株式会社御中

「Mother to Mother プロジェクト」第2年次 月次報告④

対象期間：2017年4月1日～2017年5月31日

1. 支援事業概要

事業名：	Mother to Mother Shionogi Project
事業地：	ケニア共和国 ナロク県 オスポコ郡 イララマタク地域開発プログラム事業地内
事業期間：	2016年10月～2017年9月（事業2年目）
対象人口：	14,612人（うち5歳未満児2,440人と出産年齢の女性3,507人を含む）
年間予算：	2,000万円（啓発教育費及び地域開発援助事業管理費等18%を含む）
活動目的：	ナロク県オスポコ郡の保健医療施設レベルの強化、母子保健サービスの向上、及び住民への啓発と意識・行動変容を通して、対象地域の子どもと妊産婦の健康状態の改善を目指します。

2. 進捗報告

第2年次に予定している9つの活動のうち、対象期間に実施した活動についてご報告いたします。

活動① 診療所の建設

産科棟とスタッフ宿舎は既に建設工事が開始しました。毎週、現地の政府やエランガタ・エンテリット地区の村落保健委員会と共に、建設の進捗および作業の質のモニタリングを行っています。台所の建設に関しては、建設業者との契約締結プロセスが進行中です。事業2年次が終了するまでに全建設作業が完了するように、作業を進めています。



産科棟の土台の建設現場

活動③ 巡回診療

保健省や村落保健員（CHV：Community Health Volunteer）と協力し、巡回診療を毎月1回行いました（1回の巡回診療で1地区2カ所、3地区で実施）。保健省は主に薬剤や予防接種の準備を行い、村落保健員とアドボカシー・グループは巡回診療に住民が集まるように働きかけたり、授乳婦・妊産婦や5歳未満児の診療後のフォローアップを行ったりしています。2回の巡回診療で、5歳未満児448人（男子218人、女子230人）が予防接種を受け、そのうち102人（男子48人、女子54人）が予防接種を完遂することができました（BCG、経口ポリオワクチン、三種混合、肺炎球菌ワクチン、ロタウイルスワクチン、麻疹・風疹ワクチン）。決められた予防接種を全て受けていなかった子ども15人を同定し、未接種となっていた予防接種を実施し、親・保護者に対して予防接種を全て受けることの重要性について教育活動を行いました。また、ビタミンAや駆虫薬の投与も行いました。乾燥した気候で砂埃が多い状況のために、皮膚や目の感染が主な疾患でしたが、軟膏や目薬などの薬剤処方により治療が行われています。

本報告期間には、2人の子どもが保健施設で誕生しました。巡回診療では、母親や妊産婦に対して妊娠中や出産時の合併症のリスク軽減の為に、産前健診を4回受診する重要性について啓発活動を継続的に行っています。また、これまでと同様、衛生指導や子どもの成長モニタリング、完全母乳育児、離乳食の内容についても教育を行っています。

対象期間中、73人の妊産婦と266人の授乳婦が産前健診、HIV検査、尿検査、血液検査、VDRL（梅毒）検査、葉酸や破傷風トキソイドの投与などの母子保健サービスを受けました。72人の妊産婦がHIV検査を受け、10人が4回の産前健診を受診することができました。今後も継続的に母子保健サービスへのアクセス拡大を目指して、政府とも協力してアプローチしていきます。

活動④ 保健サービス管理能力強化研修

エンクトト地区にあるオルトゥムソイ村診療所の村落保健員（Village Health Committee; VHC）15人（男性9人、女性6人）に対して、診療所の保健サービスの管理に関する研修を実施しました。今後、VHCが保健サービスに問題がないか、責任を持って管理していきます。

活動⑤ 母子保健・栄養研修

本事業で母子保健・栄養に関するトレーナー育成研修を受けた村落保健普及員（Community Health Extension Worker; CHEW）が、エンクトト地区の23人の村落保健員（CHV）（男性19人、女性4人）に対してトレーニングを実施しました。CHVはそれぞれの村において、母子の健康と栄養改善について、学んだ知識を効果的な方法で広めていきます。干ばつによる食料不足や衛生状況の悪化により、特に5歳未満の子どものたちの栄養状態が悪化しているため、これまでに本事業で研修を受けたエランガタ・エンテリット地区のCHVとエンクトト地区のCHVが各世帯に適切に母子栄養の情報提供をしていくことができるようにフォローアップを行っています。

活動⑥ 村落保健員の収入創出活動支援

エランガタ・エンテリット地区の村落保健員は、現在 GB0（地域に根差した住民組織）として正式なグループ登録の準備を進めています。また、本事業のサポートの下で収入創出のための活動の検討を行い、グループ活動として養蜂を開始することを決定しました。養蜂は費用や労力は大きくかからない上に、蜂蜜の需要がケニア国内でも伸びていることから、効率的な活動と判断して養蜂に決定しました。既に、巣箱を置く養蜂施設の建設が始まっています。巣箱 20 個が入る規模で、巣箱は 6 月に購入し、設置する予定です。



エランガタ・エンテリット地区の CHV グループ（コミュニティユニット）で収入創出活動について協議をしている様子



建設中の養蜂施設

当初、2 年次には、エランガタ・エンテリット、エンクトト、モシロの 3 地区の村落保健員の組織化と収入向上活動支援を実施する予定でしたが、一つ一つの収入創出活動の規模を当初の計画よりも拡大してインパクトのある活動を実施することにし、2 年次はエランガタ・エンテリット地区の村落保健員の養蜂活動のみを支援することに変更します。3 年次にエランガタ・エンテリット地区の活動を継続しながら、さらにエンクトト地区の村落保健員の収入創出活動を重点的に支援する予定です。

活動⑦ Mother-to-Mother (M2M) グループの活動支援

エンクトト地区において Mother-to-Mother グループを組織しました。エランガタ・エンテリット地区とエンクトト地区の M2M グループは、それぞれのコミュニティの妊産婦や母親に対して、診療所で提供される母子保健サービスや産前・産後健診を受ける重要性および子どもの予防接種の重要性を伝え、コミュニティ全体の母子の安全と健康に貢献していきます。遠隔地の住民一人ひとりにも正しい情報を伝えていくことができるように、本事業では M2M グループの活動を継続的に支援していきます。

活動⑨ 栄養不良児支援

保健省と協働の上、巡回診療や診療所にて子どもの栄養状態を確認し、栄養不良児に栄養補助食の支給を継続的に行っています。対象期間には、巡回診療時に 24 人が発育障害、25 人が消耗症、18 人が低体重と診断され、保健施設で栄養補助食の支援等を受けることができました。現地政府も子どもの栄養評価や栄養状態の向上の啓発活動の支援を開始しています。しかし、事業地で長く続く厳しい干ばつの影響による食料不足は今もなお続いており、栄養不良児が増えている状況です。本事業では、巡回診療時や診療所にて栄養指導を実施すると同時に、より多くの栄養不良児に栄養補助食の支援をできるよう、CHV や M2M グループとも協働して住民へ働きかけを強めていきます。

3. 特記事項

特になし

※次回は、2017 年 6 月 1 日～2017 年 7 月 31 日の期間の活動報告、2016 年 10 月 1 日～2017 年 7 月 31 日までの活動実績報告、3 年次の事業申請書を 2017 年 8 月末までにご報告させていただきます。

【連絡先】

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー3F

TEL: 03-5334-5350 FAX: 03-5334-5359

担当：谷村（マーケティング第1部 法人・特別ドナー課）